

健康講座

口腔内金属アレルギー

尾北歯科医師会岩倉地区会 浜島 悟

ピアスやイヤリング、ネックレスなどの金属によって、皮膚にかぶれやかゆみが起こる「金属アレルギー」。肌に直接触れるアクセサリーだけでなく、歯科治療に用いられる金属もアレルギーの原因となる事があります。

金属アレルギーは、汗や唾液などで溶け出した金属がイオン化し、体内のたんぱく質と結びつき、その結合物を免疫システムが「異物」敵」と見なして攻撃することによって起ります。遅延型アレルギーの一種で、アレルギー（アレルギーの原因物質）が体内に入ってから症状が現れるまでに、1〜2日ほどかかります。

口腔金属アレルギーの症状は、口内炎、口唇炎、口角炎、舌炎、

口腔扁平苔癬^{へんぺいたんせん}、味覚異常、接触性皮膚炎^{しょうせつせいのうえん}、掌蹠膿疱症^{しょうせつせいのうえん}、湿疹、アトピー性皮膚炎に似た症状、頭痛、肩こりなどさまざまです。アレルギーが血流によって全身に運ばれるため、口の中だけでなく、全身に症状が現れる可能性があるのです。口腔金属が原因だとは思わず、長年つらい症状に悩んでいる人もいます。

口腔金属アレルギーは、アクセサリーなどによる金属アレルギーに比べて、発症頻度は少ないといわれています。しかし、口の中は唾液が存在する以外にも、飲食物やう蝕（虫歯）の原因菌によって酸性化したり、噛み合わせや歯磨きによって金属が磨耗するなど、金属がイオン化しやすい環境といえます。

歯科治療では、歯の詰めものや被せもの以外に、部分入れ歯のバ

ネ、ブリッジ、歯列矯正装置などにも金属が使われています。

歯科治療で用いられる金属は、金、銀、銅、白金（プラチナ）、亜鉛、ニッケル、コバルト、パラジウム、クロム、チタンなど多岐にわたり、主に2種類以上の金属を混ぜ合わせた合金が使用されています。

一般的に、ニッケル、コバルト、パラジウムなどはアレルギーを起こしやすいといわれています。最近ほとんど使われなくなりりましたが、水銀を含むアマールガムも金属アレルギーを起こしやすいので、昔に治療した歯も注意が必要です。一方、金、銀、白金、チタンはアレルギーを起こしにくいとされますが、まれに、これらに対してアレルギー症状を起こす人もいます。

口の中に多くの種類の金属が存在するとイオン化しやすく、アレルギーを発症するリスクが高まる事があります。また、もと花粉症やぜん息などのアレルギー性疾患のある人や、家族にアレルギー体質の人がいる場合は、金属アレルギーを起こしやすいと考えられます。

金属アレルギーの治療の基本は、原因となる金属に直接触れないことです。アクセサリーなどで金属アレルギーを起こしたことがある人は、治療の前に必ず歯科医にそのことを伝え、原因となる金属を使わずに治療しましょう。